

今回（第1回WG）において審議する論点

1. 監視観測体制について

（火山噴火予知連絡会火山観測体制等検討会 緊急提言として取りまとめ）

○常時観測が必要な火山の見直しについて

→平成21年以降顕著な異常が見られた八甲田山、十和田、弥陀ヶ原を常時観測火山に追加

○水蒸気噴火の兆候をより早期に把握するための観測体制をどのように強化するか

→先行現象の検知に有効かつ即時的に活用できる観測項目について火口付近の観測施設の増強、また、地磁気観測および火山ガス成分観測の観測施設整備による技術開発を実施。（水蒸気噴火をより早期に把握できる手法の開発のためにも観測データの蓄積が必要）

○異常発生時における観測体制の充実をどのように行うか

→異常発生時において、速やかに現地観測・調査を実施する機動観測体制の充実や、地元の専門家や日頃山を見ている人など現地からの情報を収集できるネットワークの構築

○火山観測により得られたデータを適切に監視し、評価できる人材をどのように育成するか

2. 火山防災情報の伝達について

（1）わかりやすい情報提供

【住民あるいはこれから火山に立ち入ろうとしている人々に対して】、

○行政や個人の防災行動に結びつく情報はどうか。

- ・現在の情報では、情報を受けた自治体や個人がどのような防災対応、行動をとるべきか判断に迷うことがある

【既に火山の周辺に立ち入っている人々に対して】、

○登山者や旅行者等に対して火山活動の急変を知らせる情報が必要ではないか、またその情報は登山者や旅行者等の防災活動に結びつく情報であるべきではないか

(2) 情報伝達手段の強化

- 登山者、旅行者、住民、それぞれに対する情報伝達はどのような手段が有効か

3. 火山研究体制、火山専門家の知見の活用、育成について

(科学技術・学術審議会測地学分科会地震火山部会にて以下の方針)

○火山観測研究体制をどのように充実させるか

→重点研究火山の増

- ・重点的に観測研究を行っている火山について、現在の16火山の他に、例えば、御嶽山、雌阿寒岳、十和田、蔵王山、吾妻山、那須岳、弥陀ヶ原、焼岳、九重山を加える(計25火山にする方向で検討)

→集中的な観測研究を実施する体制の構築

- ・限られた体制で効率よく観測研究を実施していくため、(重点研究の対象以外の火山も含めて)全国の研究機関の研究者が共同し、集中的に多項目の観測研究を行う体制を構築

→水蒸気噴火の先行現象に関する研究強化

→火山に関する研究者の連携強化

- ・火山学に関係する大学、研究機関や自治体等の研究者等の知見や技術を集結。「人材」と「知」の結節をより強固にするシステム作りについて検討

○火山研究者の人材育成をどのように図るか

→地震研究者との一層の連携の他、他分野領域との連携、国際交流促進

→プロジェクト研究等を通じたポストク人材等の活用

→国の研究所等の関係機関と大学側との人材交流

○火山研究が防災・減災対策へ貢献するためにどうするべきか

→火山研究者の火山防災協議会への積極的参画

→火山の観測データの流通・公開